

子どもに麻酔不正投与

東京女子医大病院「5年間で60人」

東京女子医大病院（東京都新宿区）の麻酔科医らが昨年末までの5年間、少なくとも約60人の小児患者に對し、麻酔薬「プロポフォール」を使用禁止の条件に反して不正に投与していったことが朝日新聞の調べでわかった。同じ薬剤を

大量に投与された2歳男児は今年2月、副作用が疑われる症状で急死し、警視庁が業務上過失致死容疑で捜査している。厚生労働省も投与の実態確認を急ぐ。

プロポフォールは海外で小児の死亡例が報告され、厚労省は2001年9月、集中治療室（ICU）で人工呼吸中の小児（およそ1歳未満）への使用を禁じる通達を製薬会社に出した。製薬各社は薬剤の添付文書で、「この条件での使用は「禁忌」と明示している。

東京女子医大病院の内部資料や複数の医大関係者の証言によると、麻酔科医らは09年1月～昨年12月、ICUで人工呼吸中だった0～15歳の患者約60人に對し、いずれも2日以上にわたり、たつてプロポフォールを投与していた。死亡例は確認されていないという。容体

不明だが、大量に投与された小児もいたとされる。今年2月に死亡した男児も首の手術後、ICUで人工呼吸中に動いて呼吸用の管が抜けるのを防ぐためプロポフォールを4日間にわたりて投与されていた。投与量は成人の基準の約2・

プロポフォール
主に成人の手術時に使われる強力な麻酔剤。副作用として、脈拍の低下や気管支のけいれんのほか筋肉の細胞が血中に溶け出すなど複数の症状を併発する「プロポフォール注入症候群」も報告されている。症候群は大量投与が原因とされる。歌手のマイケル・ジャクソンさんが不眠症対策で投与され、亡くなつた。

5倍に達したとされ、その副作用で「急性循環不全」を起こして死亡した疑いが強い」とが、病院による病理解剖で確認されている。病院は3月4日に男児の死を公表し、調査を始めた。複数の麻酔科医は、使用禁止の条件と知りながら投与したことと認めたといふ。投与にあたって、院内の薬事委員会や倫理委員会の審査を経ていなかつた。複数の医大関係者によると、投与に関与した医師の一人は解剖の前、「適応の発言をした」という。関係者の一人は「禁忌と知らかにしたい」という趣旨の発言をしたといふ。関係者が適応の拡大を図つたとすれば、人体実験に等しい行為だ。全容を解明する必要がある」と話している。

東京女子医大病院は3日、朝日新聞の取材に「調査結果を公表するまで何も話せない」と回答した。

（伊藤和也）

麻醉剤を不正に投与された小児患者約60人に関する情報を持たせることを特別報道部にメール（tokuhoubu@asahi.c om）でお寄せください。